

ルート100エヌ

“ブルベ”とは「認定」と言う意味のフランス語。ナショナルブルベ100kmコースを47都道府県に！

“サイクリングとは、レースを含むスポーツサイクリング全般”とは、「UCI」のグラデーション的な考え方ですが、日本では日常利用とスポーツ利用に分けて考えられています。但し、昭和初期、実用車の耐久性をアピールするためのメーカー対抗レースが行われており、昭和30年代の第一次サイクリングブームを支えたのは一般車を扱う自転車店でした。

そんな第一次ブームを牽引した、故今井彬彦ニューサイクリング編集長のアドバイスで始まったのが、日本初のブルベ、「ルート・エヌ」です。但し、MTBブームの真っ最中だったため、PBPを目指す過程で、日本では時期尚早との声もあり、自然休止となっています。

「100kmを認定するナショナルブルベ！」

昭和40年代の第二次ブームに創刊されたサイクルスポーツの特集で、ショップ推薦のサイクリングコースがあり、それがさらにブームを加速しました。つまり、このシンプルな認定制度を“ナショナルブルベ”として構築できれば、色々な企画のベースになると考えます。

※ブルベとツーリングコンペティション

(提案先: 日本サイクリング協会)



Cyclist_Licence_And_Tourism_Maintenance_COMPASS_Plus1_Plus2

「自転車遊びの機会均等」や「春需でソフトを売ろう！」を実現するなら、「100kmを認定するナショナルブルベ」の具体化が最短ルートと考えます！
「自転車遊びの機会均等」と「春需でソフトを売ろう！」は、“鶏が先か卵が先か”と同じようなもので、そのジレンマを解くための推奨100kmコースを一気に作ることは難しくないと思います。

※自転車遊びの機会均等………≒[マルチサイクリングクラブの充実]です。スクールからツーリング、そしてレースまで面倒を見るクラブが各地に必要！
※春需でソフトを売ろう！………スクールからツーリング、そしてレースと、あらゆるジャンルの自転車遊びが全国的に充実してこそ、成り立つ考えです。

レースとツーリングの両方の性格を持つブルベ用の推奨100kmコースが各地に設定されていれば、それを使った、様々なカスタムツーリングが可能。
つまり大前提として、ツーリングコンペティションという日本に馴染みの薄いジャンルを、関係者に認知してもらうこと！
それが最重要課題・その2です！！

THT26ネットワーク

年齢性別車種不問で楽しめる等身大企画。地域貢献型サイクリングクラブのプラットフォーム！

「とれとれバイク／MTBラリーレイド」や「ルート・エヌ／ロングライドファストラ」などの中上級者向けのツーリングコンペティションでのノウハウを基に、日本の実情に合った新たな自転車旅企画として、2005年からの実証実験で探り当てたものが、主催者やエリアの規模を問わない等身大の運営が可能な「THT26」です。

それは可能性が無限大で、多くの人が関心を示し予想外の展開をする“わらしべ効果”を持っているため、サイクリングネットワーク再構築にも応用できると考えています。

「自転車遊びの機会均等」や、「ショップのメリット・デメリット」、さらに「時には参加者、時には主催者」を考慮した上で、地域貢献型のサイクリングクラブの必要性を改めて提案したいと思います。

(提案先:自転車産業振興協会、自転車協会)



Cyclist_Licence_And_Tourism_Maintenance_COMPASS_Plus1_Plus2

「自転車には歩行的な使い方と自動車的な使い方がある」とは、自転車が軽車両と再認識された後に、警察が出した見解である。それまでは自転車は歩道を走るように指導され、サイクルツーリングにおいても、歩道を走れとムチャブリされていた。確かに、ドライバーから見れば、自転車は邪魔な存在だろう。。。しかし世の中の基準が変わることも多々ある。今では自転車は原則車道走行と繰り返し広報されている。それでも自転車市民権は取り残されている。その代表格がロードレースだが、それは日本の道路事情からすると仕方ないのかも知れない。ではどうする？

日常利用とスポーツ利用の境目を「自転車さんぽ境界線」として、日常のセキュリティに収まる、走り出したら自己責任のもと、クローズド&オープンの初級ライセンスを担当する、地域貢献型サイクリングクラブの必要性を訴える。が、必要十分条件として、S級スタッフ(スーパー先達)が居て欲しい！

Think Cycling

クローズド&オープン、レース+ツーリング+ワークショップで自転車文化を考える！

1988年前後、福島県羽鳥サーキットや東京都多摩テックでショップ有志による草レースが、神奈川県宮ヶ瀬ダム(当時工事中)では任意団体による公式レースが、そして長野県松原湖高原や桐池高原などではメーカー主導のキャンペーンが、黎明期のMTBイベントとして相次いで開催された。まだATBとも呼ばれているところだった。

そしてアトランタ五輪で正式採用された1990年代前半、空前のMTBブームがあり、自転車雑誌にシングルトラックのコースガイドが連載されていた。山道を辿るツーリング企画の有志が担当していた。確かにスキー場のグリーンシーズン利用にMTBは相性が良い。しかし、競技面でもレクリエーション面でも、自転車関係者だけでは解決できないMTBの山道走行問題が残ってしまい、ブームは静かに去って行った。

その後、地球温暖化や震災復興などで、エコ系自転車ブームが再燃し、さらにインバウンド需要もあって、過去に無い程の注目を浴びている。しかし、自動車の利用と歩行者的利用の混在を警察も認めているように、自転車走行環境整備は迷走している。

そこでサイクリングの法的根拠を考えてみた。レースとソロツーリングは保証されているとしても、集団のサイクリングはグレーゾーンのようなものである。本来サイクリングはグラデーションであってグレーゾーンではないのだが、下図のような日本の最新の実情を踏まえて「Think Cycling」を提案したい。

ソロツーリング < クラブライド ≒ ガイドライド ≒ コンペライド ≒ イベントライド < レース
 セミナー+ツーリング 「Think Cycling:クローズド&オープンを二極で提案」 ツーリング+レース

(提案先:日本自転車普及協会、日本自転車競技連盟)

羅針盤
 Plus I
 Plus II

Cyclist_Licence_And_Tourism_Maintenance_COMPASS_Plus1_Plus2

レースとツーリングを国内最大規模で併催するシマノバイカーズフェスティバル。しかし単独のイベントでは解決出来ないMTBの山道走行問題が横たわっている。そのため考えたのが「レース+ツーリング+ワークショップ」でサテライト的に展開する「Think MTB」。

しかし、自転車の歩行者的利用と自動車の利用や電動アシスト自転車、さらに自転車活用推進法やイベントサイクリングも加わり、サイクリングの法的根拠もカオス状態となっており、欧米のグラデーション的な本来の考え方を一時封印し、日本のグレーゾーンに超党派で向き合うのが「Think Cycling」。

「セミナー+ツーリング」で初級ライセンスをJCA的に、「レース+ツーリング」で上級ライセンスをJCF的に、それぞれ語る両面作戦を採ります。

座学or乗り方教室 + 自転車さんぽorエデュケイショナルツアー

MTB耐久レース公式戦 + 変則サイクルオリエンテーリング(仮称:チョイス)

うまもん vs うまいもん

「生産＋加工＋販売＝六次産業化」に、イベント or セルフ or バーチャルで展開可能な販促企画を＋α

合併で拡大した岩国市も他の市町と同様に町と里の生活環境のバランスが崩れ、地域コミュニティの再生が求められています。そのための様々な分野の岩国ブランドの活性化や、地域の福地化の一助となる活動を模索しています。

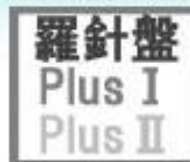
上記は2011年2月3日付け「岩国かるたドライブ企画素案そのⅡ」にある“いわくに研究会”の紹介文です。当時より“かるたドライブ”は「**かるた**×**カマド**・**モバイル**・**タンケン**」として、「見る、食べる、学ぶ、岩国を丸ごと遊ぶ、温故知新なラリーレイド」等のコピーを使い、地域資源の再発見&利活用に注力していますが、回を重ねる度にブランド磨きの必要性を痛感しています。

買い物タスク／グルメタスク／岩国福袋

また回を重ねる事で、新たな発見もありました。それが「買い物タスク」と「グルメタスク」です。どちらも協力店舗や食材提供メーカー等との交渉が必要ですが、参加者とそれらの距離を近づける効果は予想以上であり、等身大企画の武器になる可能性が見えてきました。

「岩国福袋」の中身の価値を高めるノウハウの構築。それが、ブランド磨きに飽ならないと考えます。

いわくに研究会ブランド磨き分科会



Cyclist_Licence_And_Tourism_Maintenance_COMPASS.Plus1.Plus2

岩国市発の明治維新150周年応援企画として、毛利両川体制の戦国から戊辰戦争後の奇兵隊までを守備範囲とする、「毛利チャレンジ」を企画・実践する中で見えて来たものは・・・？

トレジャーポイント(TP)候補でいつもお世話になっている、各地に点在する神社や祠の種類の多さでした！

元々そうですが「毛利チャレンジ」という切り口で見ること、神社の由緒や家紋等に更に興味を持ち、そこから明治維新で上塗りされた歴史や、途絶えてしまった文化が透けて見えたということです。本郷権祖神社では和紙作りの衰退を、油谷貴船神社では毛利の勢力範囲を、中間塩蔵蔵島神社では塩田の痕跡を、そして山口市内の護国、古熊、木戸、熊野、豊栄では為政者の目論見が・・・！！

と同時に、各地で頑張っている農林水産加工業の存在や、有名無名のお土産や銘菓がまだまだあるという事にも気付かされました！

買い物タスクやグルメタスクでの利用は限られていますが、福袋の中身や地域資源を「点・線・面」で関連付け、そして「ネット」での見せ方次第でブレイクする可能性に共鳴してくれる人も見つけました！

羅針盤 Plus I Plus II

この羅針盤は、
組織で遊び、「街道」「山道」「町の道」を網羅する、『三種のツーリングコンペティション』にて
日本の“道”を語る特殊作業が出来るS級スタッフを育成するための呼び掛けです。
そして…

Cyclist_Licence_And_Tourism_Maintenance_COMPASS_Plus1_Plus2

「走り出したら自己責任／時には参加者、時には主催者」
自然増殖する大人のグループサイクリング
≡ ツーリングコンペティション
日本のサイクリングシーンの変革を期待
：

日常のセキュリティと「警察／保険／世間」
ブルベへの評価とツーリングコンペティションの認知
ザッピング型ゲーム旅にするとOKになる不思議
主催者の大小を選ばず、年齢性別車種不問で楽しめるゲーム旅の最大の悩みは…
点・線・面そして過去未来も見渡せる先達の確保

日本の“未知”を遊ぶ！スーパー先達の登場！

【とれとればいく】と【ルート・エヌ】は中級以上、
年齢性別車種不問で楽しめる【THT26】は初級向き
：
サイクリングネットワークの再構築が「転遊研」の目的地
その先に「一期一会の日本一周」が！

山口での実証実験企画
ショップのメリット・デメリットの検証
自転車遊びの機会均等／春需でソフトを売ろう！
地域貢献型マルチサイクリングクラブ
(初級ライセンス)

単独のイベントや、特定のエリアだけでは解決できない
自転車走行環境整備にアプローチするには？
S級先達が日本の道を観察し、その答えをチョイスする！

(観光メンテナンス)
トレジャー目線で毛利チャレンジ後継企画を考える
チョイス：「街道・山道・町の道」+ネットを網羅する
次世代トレジャーハントツーリングの仮称
レース+ツーリング+ワークショップで Think Cycling
(S級ライセンス)
[JCA+JCF] or [JCA/JCF/THT Japan]

ジャンボリー形式のトライCカップ

スーパー先達は個人とは限りません!?

